

北米 AA（アルコールホーリクス・アノニマス）研究における 2 つの「理論」

ー自助グループの女性メンバーをどのように考えるのかー

○ 上智大学総合人間科学研究科後期課程 氏名 月岡 幸 (00800)

キーワード3つ：女性・自助グループ・アルコール依存症

1. 研究目的

わが国では、AA や断酒会といったアルコール依存症者の自助グループはアルコール依存症の医学的な治療のプログラムの中に導入され、医療機関からの退院後の地域ケアと結合されている（平野：1995）。これまで、自助グループがアルコール依存症からの回復に果たす役割の大きさは様々な研究が明らかにしてきた（Denzin 1993, Katz：1993）。しかし、自助グループのメンバーの多くは中年以上の男性であるため、女性メンバーについては十分な学術的な関心が向けられてこなかったとすることができる。

一方、北米では女性アルコール依存症者に対する多くの優れた先行研究が存在し、それらはわが国の女性アルコール依存症者研究に対して豊かな視点を提供してくれることが予想される。特に、この研究では先行研究の間の理論（イデオロギー）の対立の構造に注目し、このような対立が指し示す女性アルコール依存症研究を取り巻く問題点について考えてみたいと思う。

2. 研究の視点および方法

論文データベース（EBSCOhost）にて、以下の検索ワードを用いて論文を検索した（2014年6月10日）。

	AA	Alcoholics Anonymous	12steps	Higher power
women	6	14	17	1
female	0	5	1	0
gender	1	4	3	0

その結果検索された論文は 52 本であった。それらを Google Scholar にて引用件数が 10 本以上の論文 31 本を「主要論文」としてレビューした。また、「主要論文」で複数回引用されている、特に必要だと思われる論文（5本）についてもレビューした。

3. 倫理的配慮

本論文は文献研究であり、日本社会福祉学会における研究倫理指針に基づいて行われた。研究に使用した文献については、著作権等の遵守と公正で明確な引用に留意している。

4. 研究結果

1) 主にフェミニスト・パースペクティブ側からの「自助グループ不要論」

90年代前半に行われた研究の多くは、女性アルコール依存症者の回復については、AAは必要ないという観点から行われたものが多い。その理由としては①女性アルコール依存症者は現在の社会においては、男性とは異なる身体的、精神的、社会的問題を抱えており、男性向けに作られたグループでは回復出来ない (Sandmaier, Covington)。②AAは構造的に家父長的で男性中心的な文化や構造を持っている。したがって、このような環境は女性の回復には適さない (Coker, Rapping)

2) 主にセルフヘルプグループ・パースペクティブ側からの「自助グループ必要論」

90年代後半から現在にかけては、多くの研究者が女性アルコール依存症者の回復について、AAが大きな役割を果たしていることを明らかにしている。その理由としては①現在ではAAは女性メンバー自身の選択に基づく「女性アルコール依存症者の回復の場」として認知されている (Kaskutus, Bodin, Rush)。②AAには女性メンバーに女性特有の問題や社会の側からの女性差別について気付かせ、エンパワメントする独自の文化が存在する。(Sanders, Schmid)。

このように北米AA研究においてはAA女性メンバーについての2つの「理論」が存在していることが確認できた。

5. 考察

Borkmanは、自助グループではメンバーに共通する経験について、グループに存在するスピリチュアリティがメンバーの経験に意味をもたせると述べ、既存のイデオロギーは自助グループの中であまり支持されていないことを指摘している (Borkman 1999)。従って、AAについてメンバー自らがフェミニズムの見地からグループの文化や構造を再検討する機会がほとんどなかったことが指摘でき、フェミニスト・パースペクティブにとってはこの点がAAに対する批判となっている。

しかし、自助グループは本来「非常に非審判的で包括的なスピリチュアリティ」 (Borkman 1999) を持ち、メンバー同士が平等で民主的な環境のなかで共通する問題について分かち合いができる自律的な機能を持っている。したがって、このようなスピリチュアリティとグループの自律的な機能にもとづく、グループからの女性メンバーに対する支援が女性メンバーの回復に大きく作用していると考えられる。この点がセルフヘルプグループ・パースペクティブによる「自助グループ必要論」の重要な論点であるといえる。

この2つの「理論」についてはさらなる検討が望まれるが、自助グループの「自律性」「スピリチュアリティ」が女性メンバーの回復について果たしている役割についての詳細な調査がより知見を深める方法として考えられるだろう。